

学生地域定着推進広域連携協議会 平成 31 年度 活動報告書【概要版】




ジモ×ガク
JIMO × GAKU

登録学生 **621** 名
全 **83** プログラム
活動述べ人数 **726** 名

目 次

1. 実施結果概要	01
2. 登録大学生の分析	
(1) 登録者の属性	02
(2) 登録人数・参加延べ人数	03
(3) 個人別の参加回数	04
(4) 登録学生の出身地	05
(5) 活動参加評価書	06
(6) 記述式解答	07
3. 実施プログラム概要	
・ 江別市	08
・ 芦別市	09
・ 赤平市	10
・ 三笠市(三笠市・長沼町合同)	11
・ 南幌町	12
・ 由仁町	13
・ 長沼町	14
・ 栗山町	15
4. 成果と課題	16

1. 実施結果概要

(1) 実施期間

- ・平成31年4月～令和2年3月

(2) 事業名称

- ・学生地域定着推進広域連携事業（愛称：ジモガク）

(3) 登録者数

- ・621名(内識別途記載)

(4) 実施プログラム数

- ・83プログラム(一覧は別途記載)

(5) 加盟団体

- ・大学：酪農学園大学、札幌学院大学、北翔大学、北海道情報大学
- ・自治体：芦別市、赤平市、三笠市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町、江別市

(6) 広報活動：大学への出前講座、チラシ配布等による PR

(7) 学生地域定着状況

	大学	自治体	就職先	参加した地域活動 プログラム（主なもの）
学生①	札幌学院大学	栗山町	民間企業 JA そらち南	・栗山町・由仁町を知るバスツアー（栗山町・由仁町） ・栗山夏まつり（栗山町）等
学生②	札幌学院大学	栗山町	民間企業 JA そらち南	・栗山町・由仁町を知るバスツアー（栗山町・由仁町） ・くりやま老舗まつり（栗山町）等
学生③	札幌学院大学	江別市	民間企業 商工会議所	・まるごと江別（江別市） ・企業インターンシップ（江別市）等
学生④	札幌学院大学	江別市	民間企業 障がい福祉施設	・冬季イベントボランティア（栗山町） 今年度中にUターン定住
学生⑤	北海道情報大学	江別市	起業 ボードゲームカフェ	・江別出前環境学校

2. 登録大学生の分析

(1)登録者の属性

①傾向

平成 31 年度の登録者数は、4 大学で 621 名(平成 31 年度以前の卒業者は除く)となった。所属大学及び性別の内訳は表 2.1 に示す通りである。登録者数は昨年度と比べて 25 名増加した。

②考察

所属大学においては、昨年度同様、講義等で直接 PR をできたり、活動へ参加することで出席や単位認定されたりする大学での登録者数が多い傾向にある。

学年の内訳は表 2.2 の通りであるが、2～4 年生の割合が高くなっている。所属大学と同様に、講義での PR や、ゼミ活動を通じた参加が盛んな学年であり、それに比べて 1 年生の割合が少ないのは、当該学年に向けた PR の機会が少なかったためと考えられる。

表 2.1 登録者数

(人)

	男	女	合計	%
札幌学院大学	94	72	166	26.7%
北海道情報大学	33	13	46	7.4%
北翔大学	32	113	145	23.3%
酪農学園大学	135	129	264	42.5%
総計	294	327	621	100.0%

表 2.2 登録者の学年

(人)

	1 年	2 年	3 年	4 年	大学院	不明	合計
札幌学院大学	18	37	50	60	0	1	166
北海道情報大学	7	7	14	18	0	0	46
北翔大学	27	41	43	33	1	0	145
酪農学園大学	22	65	90	86	0	1	264
総計	74	150	197	197	1	2	621

表 2.3 登録者数の推移

(人)

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
登録者数	62	305	466	596	621

(2)登録人数・参加延べ人数

①傾向

全 83 プログラムに参加した延べ人数を以下に整理する（江別市のインターンシップ事業は延べ 197 名の参加となり、比率が大きくなるため、除外した数字で整理した。）

登録人数に対する参加回数の比率を表 2.4 の「B/A」で表しているが、全登録者平均は 0.9 となっている。情報大学と北翔大学は、この数値がそれぞれ 1.5、1.2 になっている。登録人数に比べて複数参加する大学生が多数いることが要因である。

②考察

昨年同様の傾向が見られるが、一度の参加活動が授業出席に認定される授業がきっかけでの参加や、ゼミ活動の一環として単発の活動に参加した場合は、まとまった人数が参加しても他の活動まで繋げられないケースもあり、リピート率を下げる一因になっていると思われる。

また 3、4 年の学年になると就職活動等を優先する学生が多くなっているため、参加率が低下し、登録人数に対して参加人数が減少している原因にもなっている。

表 2.4 登録人数及び参加延べ人数

	登録人数(A)	%	述べ日数(B)	%	B/A
札幌学院大学	166	26.7	151	28.4	0.9
北海道情報大学	46	7.4	68	12.8	1.5
北翔大学	145	23.3	173	32.5	1.2
酪農学園大学	264	42.5	137	25.8	0.5
総計	621	100.0	532	100.0	0.9

※延べ人数の計算：1 日毎に活動プログラムに参加した学生の合計人数

表 2.5 学年別登録人数及び活動人数

学年	登録人数	%	活動人数	%
1 年	74	11.92	64	27.59
2 年	150	24.15	74	31.9
3 年	197	31.72	55	23.71
4 年以上	198	31.88	37	15.95
不明	2	0.32	2	0.862
総計	621	100	232	100

(3)個人別の参加回数

①傾向

登録者のうち、今年度 1 回でも活動に参加した人数は 220 名となっている。登録者の約 60%の 389 名は、一度も活動に参加していない。同じく 3 回以上活動に参加しているのは約 7%にあたる 45 名となった。

②考察

一度も参加しない人数の割合は、昨年度とほぼ変わらず、これは昨年度以前に登録をして一度も参加していない層が今年度もいることが原因と考えられる。

2 回以上の参加者が減少しているものの、今年度は 3 回以上参加している学生が 1.3%も増加している。これは当プログラムに興味を持ち、複数参加してくれている学生が増加していることが考えられる。

図 2.1 参加した学生の参加回数と人数

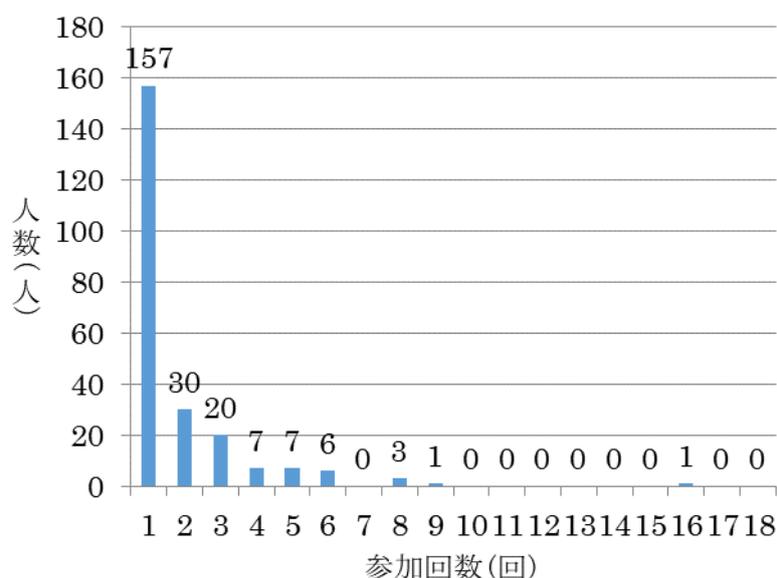


表 2.6 登録者数に占める参加者の割合

	人数(人)	登録者数に占める%	昨年度比
登録人数	621		1.04
未参加	389	62.6	1.03
1 回以上参加者数	232	37.4	1.05
2 回以上参加者数	75	12.1	0.99
3 回以上参加者数	45	7.2	1.29

(4)登録学生の出身地

①傾向

登録者のうち、出身地のわかる学生 466 名について整理した。約 71%は道内出身であり、その内約 29%は札幌市出身となっている。江別市の 4 大学に在学する学生が対象ではあるが、江別市出身の学生は 8%程度となっている。

②考察

江別市を除けば、当事業の活動対象地域の出身者はごく少数であり、この事業を通して初めて関わるケースが多いと思われる。昨年度と比べると北海道出身の割合が約 3%増加しており、道内出身者が増加傾向にある。約 29%の道外出身者にとっては、江別以外で初めて関わる道内の自治体というパターンも多くあり、一度の関わりでも強い印象を残せる可能性が高い。

表 2.7 登録学生の出身地

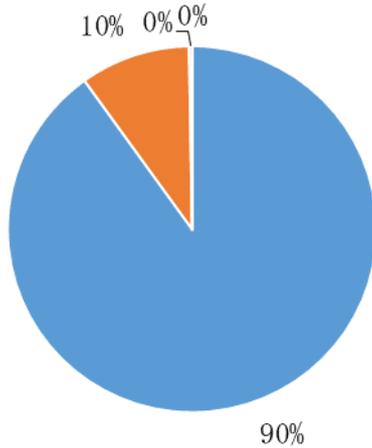
全国別			北海道内		
出身地	人数(人)	%	出身地	人数(人)	%
北海道	332	71.2%	札幌市	93	28.7%
東京都	11	2.4%	江別市	26	8.0%
青森県	9	1.9%	帯広市	18	5.6%
宮城県	9	1.9%	岩見沢市	16	4.9%
福島県	9	1.9%	函館市	10	3.1%
大阪府	9	1.9%	旭川市	10	3.1%
岩手県	7	1.5%	栗山町	4	1.2%
埼玉県	6	1.3%	長沼町	3	0.9%
愛知県	6	1.3%	芦別市	2	0.6%
兵庫県	6	1.3%	赤平市	2	0.6%
福岡県	6	1.3%	三笠市	2	0.6%
群馬県	5	1.1%	南幌町	2	0.6%
その他	51	10.9%	由仁町	1	0.3%
合計	466	100.0%	その他	135	41.7%
			合計	324	69.5%

※未記入数：155 人 北海道のみ記入：8 人

(5)活動参加評価書

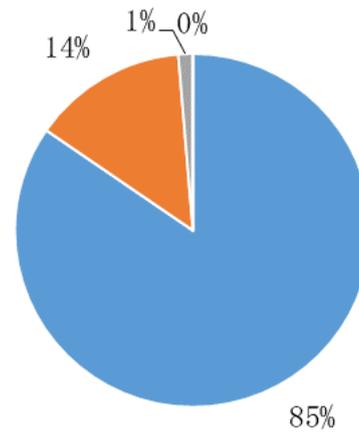
活動後に記入する活動参加評価書の集計結果は、以下の通りとなった。選択式のみを集計は以下に示す(記述式は参考資料に添付)。この結果についての考察は、「4.成果と課題」に記載する。

1. 自分にとって有意義だったか



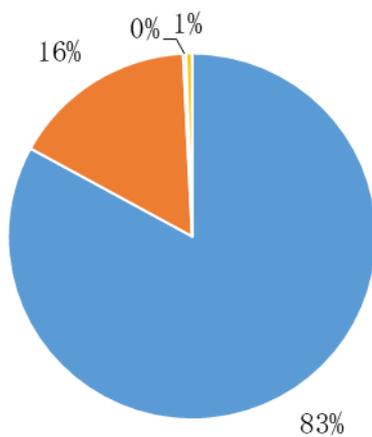
- ① 有意義だった
- ② まあ有意義だった
- ③ あまり意義がなかった
- ④ 意義がなかった

2. 地域を知り、良い出会いを得るきっかけになったか



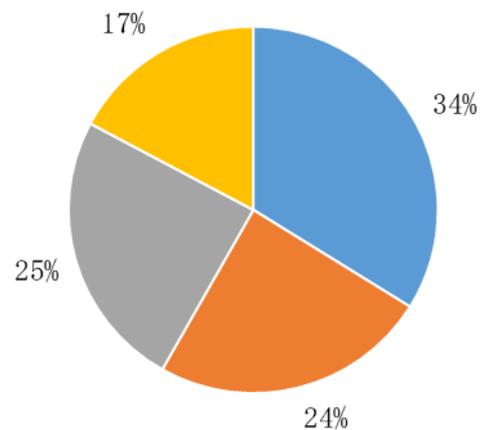
- ① なった
- ② 少しなった
- ③ あまりならなかった
- ④ ならなかった

3. 今後も参加したいか



- ① 参加したい
- ② まあ参加したい
- ③ あまり参加したくない
- ④ 参加したくない

4. 就職や進路、活動地域に対する意識は変わったか



- ① 変わった
- ② 少し変わった
- ③ あまり変わらない
- ④ 変わらない

(6)記述式回答 記述式のうち、主な回答を抜粋して以下に示す

質問項目	回答
①自分にとって有意義だったか	<ul style="list-style-type: none"> ・自分とは違う世代の人たちとコミュニケーションを取ることで、新たな関係ができた。 ・初めて来たけど、街の雰囲気、住民の方々がとても良い人でした。 ・地域活動を経験したことがなかったので、新たな経験を積める良い機会だった。 ・地域の人との交流が楽しかったため。 ・様々な方の江別や地域に対する考えを聞くことができたから。 ・自身の興味のある分野での活動であったため。 ・イベントを通して、町内の人たちと協力し、運営に携わることができて、とても有意義でした。 ・3年間このお祭りに参加してみて、毎年違うことをやらせてもらえた。 ・このような機会じゃないと、他の市町村に行けないので、ボランティアを通して有意義に過ごすことができたから。
②地域を知り、良い出会いを得るきっかけになったか	<ul style="list-style-type: none"> ・特産や食べ物の魅力を知ることが出来た。 ・ボランティア参加者同士の交流もできた。 ・来てくれたお客さんとの会話を通して、地域を知ることができた。 ・今まで出会うことのなかった人にこのイベントを通して出会えたから。 ・地元ですが、この祭りは行ったことがなかったため。 ・帰りの際、明日も来る？と言われ、また明日も来たくなった。 ・覚えていただけたのが嬉しかったです。 ・昨年も参加していたので、地元の人々ともっと親しくなることができた。
③今後も参加したいか	<ul style="list-style-type: none"> ・このボランティアで初めて会う人たちともっと関わってみたい。 ・他大学の学生と交流する機会が少ないため。 ・自分の可能性や視野、思い出を広め深めたいから。 ・地域の方と協力して1つのことを成せることがとても楽しかったから。 ・地域の特色を知られる活動であるから。 ・地域を楽しませるために参加したい。 ・このような有意義な時間が過ごせるなら参加したいと思えたため。 ・もっと早くから参加すればよかったと思いました。
④就職や進路、活動地域に対する意識は変わったか	<ul style="list-style-type: none"> ・地域それぞれの特性を知ること、将来どこで働くかなど参考になるから。 ・地域に関わる仕事に興味を持ちました、公務員にも興味を持ちました。 ・業界を1つに絞って考えていたが、他の業界も考えるようになった。 ・札幌かその周辺などだけを考えていたが、赤平などもあると思った。 ・これからもっと活動したら地域の良さが分かってくると思ったから。 ・江別就職も初めて考えました。 ・会社の方に見学にでもおいでと言われたので行ってみたいです。

3. 実施プログラム抜粋

【江別市】

事業名	えべつまちづくり学生ワークショップ	
日程	9/26 (木) 18:30~20:00	
のべ人数	7	
概要	江別市のまちの活性化策について市内大学生が話し合う	

事業名	えべつまちづくり学生ワークショップ	
日程	9/26 (木) 18:30~20:00	
のべ人数	7	
概要	江別市のまちの活性化策について市内大学生が話し合う	

事業名	江別の企業を知るツアー	
日程	2/19 (水) 10:15~16:00	
のべ人数	4	
概要	市内で特徴的な事業を展開する各企業の事業内容や見学し説明を受ける	

【芦別市】

事業名	日本プロ野球OBクラブベースボール サマーキャンプ in 芦別	
日程	8/5（月）～7（水）11:00～13:00	
のべ人数	6	
概要	元プロ野球選手が講師となり小学4年生から6年生を対象に実技指導する野球教室の補助	

事業名	観光施策の検証	
日程	8/19（月）～21（水）11:40～15:00	
のべ人数	6	
概要	観光資源のモニタリングとその魅力と付加価値を向上させるための感想や意見を取りまとめて、意見交換会など	

事業名	企業インターンシップ	
日程	2/25（月）～27（水）11:00～15:00	
のべ人数	3	
概要	3日間の短期インターンシップと意見交換会	

【赤平市】

事業名	「第2回あかびらエルム高原マラニック」運営ボランティア	
日程	8/3（土）8:00～15:00	
のべ人数	7	
概要	第2回あかびらエルム高原マラニックの運営補助	

事業名	企業インターンシップ	
日程	8/25（月）～30（金）	
のべ人数	3	
概要	市内企業へ3日間のインターンシップ（6社）	

事業名	教育支援	
日程	通年	
のべ人数	4	
概要	赤平市教委独自の学生対象ボランティアへ登録し、小中学生への学習等を補助	

【三笠市】

事業名	みかさ桂沢紅葉まつり	
日程	10/13（日）9:00～15:00	
のべ人数	5	
概要	イベントスタッフとして、来場者誘導、PR資材配布、ごみ収集など	

【三笠市・長沼町合同】

事業名	企業を知るツアー	
日程	2月13日（木）8:45～13:30	
のべ人数	2	
概要	地域で特徴的な事業を展開する各企業の事業内容や見学し説明を受ける	

【南幌町】

事業名	南幌高校学校祭	
日程	7/13（土）10:00～15:00	
のべ人数	11	
概要	学校祭一般公開に関する準備・運営と学生によるブース運営	

事業名	野祭（やさい）	
日程	8/31（土）10:00～17:00	
のべ人数	4	
概要	若手農業者団体「農猿」が主催する一大農業イベント「野祭（やさい）」の会場設営・撤去、イベントスタッフ	

事業名	なんぼろ冬まつり	
日程	2/2（日）9:00～16:00	
のべ人数	10	
概要	冬まつりで使用する滑り台・冬の遊びコーナーや会場内運営スタッフとして参加	

【由仁町】

事業名	全町自治区対抗ソフトボール大会ボランティア	
日程	7/14（日）7:00～17:00	
のべ人数	4	
概要	全町自治区対抗ソフトボール大会のスタッフ	

事業名	由仁小学校「夏休み学習会」	
日程	7/25（木）、26（金）、29（月） 9:00～10:20	
のべ人数	8	
概要	由仁小学校の夏休み学習会において、教員の補助	

事業名	ムカデ競走参加	
日程	8/4（日）9:30～14:00	
のべ人数	8	
概要	由仁町夏まつりで開催されるムカデ競争の運営補助及び選手としてムカデ競争に参加	

【長沼町】

事業名	第 119 回夕やけ市	
日程	9/21 (土) 16:00~20:00	
のべ人数	19	
概要	「夕やけ市」のスタッフとして、イベント会場運営補助(会場準備、子供向けミニゲーム等)を行う。	

事業名	おもちゃづくりのつどい	
日程	10/27 (日) 9:30~15:00	
のべ人数	3	
概要	町内の小学生たちとレクリエーション後、ランタン、プラバン、ビーズ等を使ったキーホルダー等を作る	

事業名	冬キャンプ	
日程	2/8 (土)、15 (土)、16日 (日) 9:00~21:00	
のべ人数	7	
概要	「冬キャンプ」の運営手伝い(スノーラフティングやドローン体験、巨大すべり台づくり、テントサウナなどの手伝い)	

【栗山町】

事業名	くりやま老舗まつり	
日程	4/12(土)～13(日) 10:00～16:00	
のべ人数	13	
概要	お祭りの会場 PR、ごみ分別作業などイベント補助	

事業名	子育て支援ボランティア（子どもフェスティバル）	
日程	10/6（日）8:30～13:00	
のべ人数	7	
概要	就学前の子どもとその家族を対象にしたイベントのサポート	

事業名	冬季休業中の学習会（栗山小学校）	
日程	12/23（月）～25日（水）9:00～11:40	
のべ人数	11	
概要	主に児童が問題を解いた後の丸付けや、困っている場合のアドバイス等行う	

4. 成果と課題

(1) 大学生

成果	課題
<p>★参加実績と評価結果 昨年度同様、今年度も当事業をきっかけとして、地域活動に参加した学生が約 200 名生まれた。活動評価書の結果では「自分にとって有意義だったか」(有意義だった:3%上昇)、「地域を知り、良い出会いを得るきっかけになったか」(なった:6%上昇)、と昨年度よりも高い満足度が得られており、全体的にプログラムの満足度が上昇していることが伺える。</p> <p>★交流と学生の意識 継続して参加する学生は、他大学の学生との地域活動での交流や地域の方々との会話や活動によって満足感が生まれ、地域を意識していく確率が高くなる。</p>	<p>★未参加学生 複数の地域活動に参加すると再度参加する確率は高くなるが、一度きりの参加学生の翌年度や、登録はしたものの参加をしてみようと一歩を踏み出すことが難しくなっている学生は未参加となっている。これを解決するためにも、学生に直接アピールする機会を作ったり、大学の教員、職員から促されたり、あるいは友達が誘ったりという、対面で背中を押す機会を更に増やす必要がある。</p> <p>★ターゲットの設定 活動内容によってアピールするターゲットを絞り(子育てであれば子ども学科など)、効果的な PR を出来る環境を構築する必要がある。</p>

(2) 受入地域

成果	課題
<p>★受入態勢の充実 学生の活動に対する進路や就職に対する意識が変わっている学生が多く、受入地域の方々との触れ合いを通して地域の方々の温かさを知り、地域を知ってもらおうという熱意によるものと思われる。</p> <p>★若者の参加 地域においても若い大学生世代の参加によって日頃のイベント等でのモチベーションがあがり、より地域を活性化していこうという機運が生まれている。</p>	<p>★募集時期・期間 募集から締め切りまでの期間が短いと、参加したくても既にアルバイトの日程が決まっていて参加できない、という声が聞かれた。アルバイトのシフトは一ヶ月単位で決まることが多いため、募集期間は一ヶ月くらいあることが理想である。</p> <p>★活動の多様性 参加したいプログラムを増やすことで、学生のニーズにマッチし、参加率が高くなることが考えられる。</p>

(3) 運営

成果	課題
<p>★大学との連携</p> <p>大学側のご協力により、新学年ガイダンスやオリエンテーションなどで、PRする機会を設けさせていただいている。直接語りかけられる機会が増やせば、更に参加者の上昇が見込まれる。</p> <p>また、直接ご相談できる教員の方が増えることで、授業の中でPRさせて頂いたり、活動のニーズに沿ったマッチングが可能になってきている。</p> <p>★無事故</p> <p>これまでの運営の中で、事故やトラブルがなかったのも、活動に対して、運営・地域の密接な連携と安全の確保を怠らなかった成果だといえる。</p>	<p>★参加学生の確保</p> <p>特に7月下旬から8月上旬は、夏祭り等のイベントが多いにも関わらず、大学では夏季休業前のテスト期間に重なり、参加学生を見つけることが困難になる。それでも、学年によってはテストが少ないこともあるので、各学年等しく登録学生を確保することが重要となる。</p> <p>★地域定着</p> <p>まだまだ地域定着に繋がる事例が少ないことから、地域を知って地域を意識する段階から、地域で働くことをイメージできるよう、地域の企業をもっと知る活動につなげていく必要がある。</p>

